

PSIA、入退管理と侵入製品の相互運用性用エリア・コントロール仕様を発表

PSIA(Physical Security Interoperability Alliance: 物理セキュリティの相互運用連合)は、エリア・コントロール仕様 v1.0 を発表した。本仕様は、全体的なセキュリティシステムの相互運用性を構築し、入退制御や侵入製品用の通信を標準化する。エリア・コントロール仕様は、業界がセキュリティ操作を最適化するために必要な統合ソリューションを提供する。これは PSIA が統合仕様の中で最も包括的なセットの提供する第四システム指向の仕様となる。

ASSA ABLOY 社、ハネウエル社、Inovonics 社、レーネル社、マーキュリー・セキュリティ社、NICE 社、スタンレイ・セキュリティ社、UTC 社、VidSys 社など PSIA の有力企業により、PSIA は幅広い業界のコラボレーションを達成した。これについて PSIA のデビッド・ブンゼル代表理事は「入退管理および侵入システムの市場の 65%以上を占める代表的な有力企業が関与していることを考えると、我々はこれが事実上の業界標準として期待している」と声明を発表した。

エリア・コントロールの仕様は、他の PSIA の仕様や共通メタデータとイベントモデル (CMEM) を利用している。CMEM は、様々な物理的なセキュリティデバイスから受信したデータを処理するための包括的な方法を提供する。具体的には、最適化されて簡単に統合されたセキュリティ管理内の入退管理や侵入、映像と解析システムなどの複数のデータを調和し共有する。